From Kobe 2013
【04】

From Kobe 2013 思いつくまま

【 From Kobe　2013 年 5 月　新緑の季節便り 】

【 From Kobe　2013.年 5 月　新緑の季節便り 】
1. 春景色　From Kobe
【 庭の草花も今が盛り 百花繚乱 うれしい春の庭に 2013.5.1. 】
2. 屋久島・種子島の不思議を 島を結ぶ線で作った断面図で 眺める
屋久島・種子島理解のために

5 月の大型連休も終わってひととき いかがでしょうか
さわやかな 5 月の風かふきわたり、野山は新緑につつまれ、庭先にも春の草花が満開
毎日毎日変化してゆく春景色に目を奪われる毎日この自然の息吹・エネルギーを貰って リフレッシュせねば‥

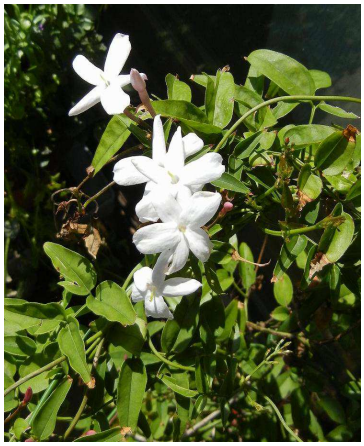
2013.5.15.　from kobe　Mutsu Nakanishi

1.　春景色　From Kobe【 庭の草花も今が盛り 百花繚乱 うれしい春の庭に 2013.5.1. 】

桜草が終わった庭に　バラにクレマチス ジャスミン アグロステンマ ポピーにすずらんも咲いて
家の角先では ツタンカーメンの豆の収穫 そして黄色や真っ赤なポピーに背の高いピンクのアグロステンマ
毎年の春景色ですが、庭が一番華やぐ時 我が家自慢の景色です

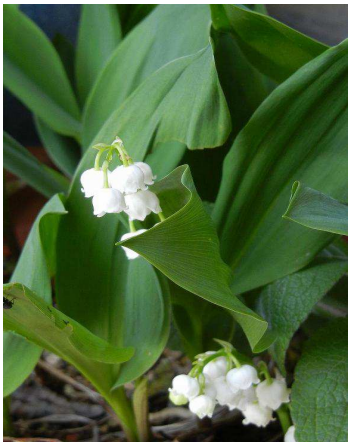
バラ

クレマチス


ジャスミン

アグロステンマ

ポピー


すずらん

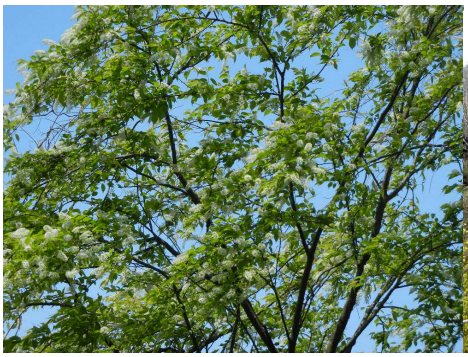
◎　新緑の緑の林の中で咲く　ミツバツツジ

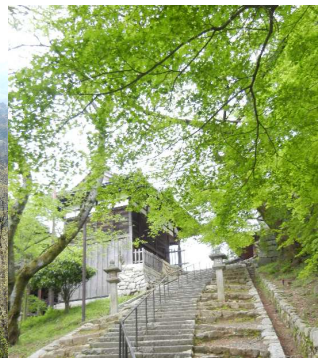
淡い緑に包まれた林の中で、春の日差しを受けて　小さなピンクの花を枝にける　緑の中でのピンクのコントラストが素晴らしい。

桜やシャクナゲ　そして春の草花に目を奪われて　ついつい忘れていますが、私の好きな素晴らしい春景色のひとつです･

須磨　旗振り山で　　2013.4.9.

◎　名前を知らないのですが、樹木や草木の移り変わる春景色





◎　今年のカタクリの花

ことしも心待ちにしていた春を告げる妖精「カタクリの花」　　花を咲かすまでに成長するのに約８年

花が咲き始めたと聞いて　雌岡山の群生地に高校時代の仲間を案内して一緒に出会ってきました。

地球氷河期の生き残り　日陰の山腹の斜面で　冷たい風に身を打ち震わせる姿に　いつも心を揺さぶられる

おもわず「 ガンバレヨ！」と声をかけたくなる

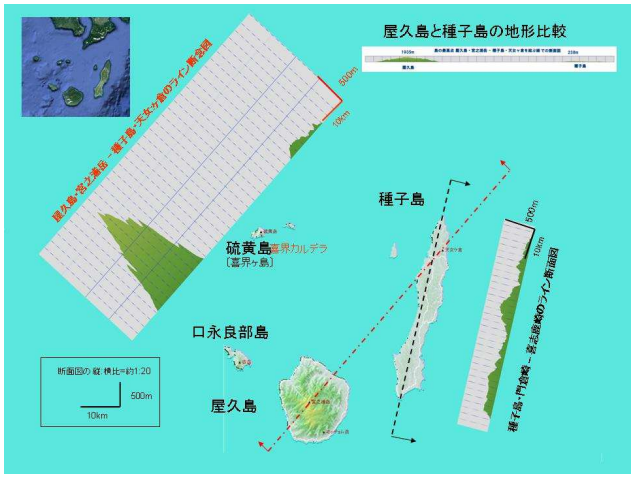
2. 屋久島･種子島の不思議を　島を結ぶ線で作った断面図で　眺める　屋久島･種子島理解のために

屋久島･種子島から帰って　まだ　屋久島ボケですが、屋久島･種子島理解のため作成した断面図

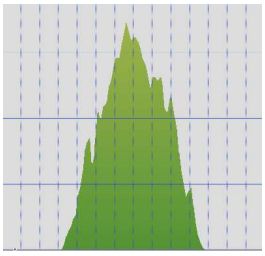
屋久島と種子島　隣り合う二つの島がこんなにも　地形･地質が違うのか‥‥

これが判らないと　屋久杉の謎も砂鉄の謎も解けない

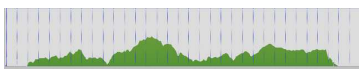
4 月 13 日から 16 日まで、屋久島へ行って、帰りに種子島へ立ち寄って帰ってきました。
屋久島の世界遺産地域にある縄文の森　縄文杉にも出会えました。本当にただただすごい杉。
屋久島の森で過ごした 4 日　体験したことのない深い森　縄文の森に感激でした。
また、島の海岸いたるところで砂鉄がみられる種子島にも立ち寄って、砂鉄浜を歩いてきました。
このふたつの島は約 7000 年前日本全体を火山灰で覆い大気候変動と幾多の動植物の生態系を破壊した「アカホヤ噴火」をおこした大海底火山喜界カルデラにすぐ隣接する地なぜ　こうも違うのか‥‥
屋久島を案内してくれたガイドさんたちや種子島の博物館でも話を聞き、また、実際に島を歩いて、理由はわかるのですが、どうも実感がない。　これはなんだ・・・・と。
　屋久島を離れて　ジェット船で種子島へ行く途中　海面すれすれにしか見えてこない平坦な種子島に対して、海岸から立ち上がる屋久島の山々。　そういえば「屋久島の最高嶺宮之浦岳は島の海岸部のどこからも見られず、海上か飛行機からしかみえない」と何度もききましたが、それがこれか・・・・。　屋久島も種子島も”じんじょうな??”ではないのだと。
家に帰ったら　この好対称の二つの島を結ぶ断面画を作ってながめてみよう。　そうしないと　これらの島のすごさが見えてこないと。



こんなにも島の起伏が違うのだと初めて実感する。 屋久島の山は山というより壁　確かに雨を降らす障壁。また、この角度そのままで、海に地形が入っているのだと。川にゴロゴロある巨大な岩も、雨が降ると一気に数 m 水位があがるというのもわかる。 川に押し流された砂は海岸にとどまれない。



屋久島



種子島

この断面図を見ていると屋久島は火山噴火しなかったが、噴火寸前のマグマの上昇があったのか
あわせて、屋久島に住み着くのは大変。相当のかくごがいるなぁ・・・と。種子島が都会に見えてくるのも理解。
最近「現場主義だ　現地へ行って来た」などと自慢する話をよく耳にするが、この断面図は見る視点がなければ何も見えないことを教えてくれる。　先月のだまし絵と同じ。　屋久島･種子島は魅力一杯の不思議な島なんだと。
今月掲載した「屋久島･種子島」の数多い写真　こんな目でも見ていただければ　ありがたいです。